

# 高退協ニュース

No. 212  
2018年  
5月8日  
発行  
高知高退協  
事務局

〒780-0850

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸の内2丁目1番10  
高知城ホール高教組受付  
連絡先 Tel. 088-822-6822  
郵便振替口座 〇二六五〇二二二八九三

## 核兵器禁止条約の批准と 核被災者への支援を求める 高知のつどい 橋元陽一



左から 日本被団協 田中照巳代氏、ICAN国際運営委員会長川崎哲氏、  
ビキニ核被災者補償会共同代表 間元元氏

2017年、国連で加盟国193カ  
国中165カ国の賛成で核兵器  
禁止条約が採択されました。  
そしてICANがノーベル  
平和賞を受賞するなど、核  
兵器だけでなく核実験によ  
るヒバクシャへの救済に希  
望を与える道が切り拓かれ  
ました。  
この間、高知でもヒバク  
シャ救済の道を切り拓きた  
たかが続けられてきてい  
ます。2016年2月、高知の元  
マダロ船の乗組員と遺族が  
全国健康保険協会船員保険  
部に労災申請しましたが、  
昨年12月25日に「不支給と  
する」と通知が届きました。  
また今年2月16日、ビキニ  
核被災者訴訟の第9回口  
頭弁論が結審し、7月20日  
判決が出る予定となりまし  
た。

こうした場合の中で、高  
知からも核兵器禁止条約の  
批准と核被災者の救済を求  
める声をあげようと、核兵  
器禁止シンポジウムが企画  
されました。3月4日午後  
1時から4時30分、高  
知のつどいが開催されまし  
た。

山下正寿さんが「核兵器  
禁止条約とビキニ核被災者  
事件」と題して基調報告を行  
い、続いて3人のシンポジ  
ストが発言しました。  
最初に日本原水爆被害者  
団体協議会代表委員の田中  
照巳氏が、郷里長崎でのヒ  
バクと東北大学で物理学者  
として教鞭をとりながら長  
年核実験に関わってきた  
経験から、ICAN国際運営委  
員長の川崎哲氏は、ビースポ

### 楽しいひとときでした 退職組合員を励まし、 新加入を祝う会

3月24日  
高知城ホールにて

三月二十四日、恒例の標  
記の会が高知城ホールで開  
催されました。今年退職す  
る組合員は、十六名。内六  
名が参加され、高退協から  
も十五名が駆けつけました。  
田中(副会長)が代表して、

退職、一つの節目  
お疲れさまでした  
高退協副会長 田中正

「高退協からお迎えに来ま  
した」の歓迎と、「ご苦労さ  
ま」の慰労の挨拶を、乾  
杯の音頭を取りました。  
参加した退職者一人一人  
からの出合いなどしみじみ  
合との出会いなども贈られ  
り、そして愉快な挨拶があ  
り、その後後輩からの花束  
煙山佳代さん(高退協会員)  
からのアンパンマンのクッ  
キーメダルなども贈られま  
した。

懇談では在職中の活動や  
教育実践、苦しかったこと  
や楽しかったこと、退職後  
の生活や年金のこと、再任  
用や介護の組合員、高退  
協会員入り交さって、杯を  
揚げて交流、交歓しました。  
島本 聡さん(高退協会員)  
からもお祝いのバイオリン  
演奏のプレゼントもあり、  
「お祝い盛り上がりでした。  
お祝いにも熱演されました」  
と、退職も人生の一つの節目。  
区切りもついたところで身  
も体も、脳もフレッシュ  
して、またお互いに前を向  
いて歩いていきたいと思います。  
もう一度、「お疲れさま」の  
声をお届けします。



退職するみなさんに花束贈呈



中締めにあいさつをする井垣政利さん



乾杯にあいさつをする田中正さん

### 私たちのいのちと暮らしは守られているか どこへ向かう高齢期の社会保障 「高齢期の社会保障と私たちの暮らし」

講演「高齢期の社会保障と私たちの暮らしー年金・医療・介護ー」  
25条の会学習会 田中きよむ氏(高知県立大学教授)



バイオリン演奏する島本聡さん

別役 美佐  
3月24日(土)に、「憲  
法25条の会」の主催で、学  
習会が行われました。単独で学  
習会を行うのは、2年ぶり  
のことです。今回は、①家  
庭介護にあたられた10年目  
の方の報告 ②「地域づく  
り・町づくり」(高知市西  
部地域高齢者支援センター  
旭分室)の観点から高齢者  
への支援の在り方 ③「高  
齢期の社会保障と私たち  
暮らし」年金・医療・介護  
と題して田中きよむ氏  
(県立大学教授)の講演を  
3本柱で学びの場を設定し  
ました。

①家庭介護の報告は、身  
につまされる参加者も多く、  
その泣き笑いの介護生活へ  
の共感も多く、涙ながらに  
話を伺いました。③高齢者  
支援センターの方からは、  
「おせっかい内容で、支え  
くり」という内容で、支え  
合いの地域マップづくりと  
ともに、認知症サポーター  
養成講座の紹介等がありま  
した。◎田中きよむ氏は、

哀悼  
町田 増実さん  
2018年1月4日逝去  
松田 昇さん  
2018年4月13日逝去  
謹んでご冥福を  
お祈り申し上げます。

「真の積極平和は、日本国  
憲法前文の平和的生存権規  
定と共通性をもち、戦争を  
防ぐことが国民の生存権を  
保障することと同時に、生  
存権を充実・発展させること  
が戦争への突入を阻止する  
注目となる。貧困を克服し  
生存権を充実させて、憲法  
第25条を実質的に生かすこ  
とが第9条の平和主義を担  
保することにつながる」と  
説き、近年の「制度改革」  
の裏に見え隠れする弱い者  
いじめ、生存権をも奪い取  
ないしくみや実態を詳細  
に、ひとつの例ですが、医  
療保険制度改革関連法(2015  
年5月27日成立)により、  
食事療養標準負担額(入院  
給食費1食640円のうち自己  
負担額)は16年度は360円  
でしたが18年度からは480円へ。  
紹介状なく大病院(500床以  
上)を受診時の定額負担  
(18年度)は、五千円(一  
万円)(1)と3割負担とは別  
途負担)後期高齢者制度  
の低所得者特例軽減措置の  
廃止(17年度)となり、高  
知県平均保険料(一人当り  
月額)は、16年・17年度は、  
4932円でしたが、18年・19年  
度は、5368円へと上昇見込み  
となっております。  
なお、学習会は県立大学  
で行われ27名の参加があり  
ました。